【ねがいましては】

平成２３年６月２７日　　*KYOWA SCHOOL*
第２４８号

「前向きの条件」

６月後半、地元の中学校では定期テストが始まりました。新１年生にとって、１学期の中間テストがなかったところでは初めての定期考査になります。KYOWA でも「ランチ講習」なる個々自由な取り組みをする時間を設けています。

ほとんどまる一日、自由に勉強に取り組みます。ランチは栗田が作ります。据え膳、下膳、洗い物はすべて彼らの積極的な行動に任せます。「いただきまーす。」

いつもこの光景から連想されるのが、女房に逃げられてしまった男やもめと子どもたち・・・。

私はこの光景がとても好きなのですが・・・。

自分の人生は自分が決める。大げさな表現なのかもしれませんが、徐々に自我に目覚め、『生きる』を考え始める年頃の子どもたちにとっての前向きを発揮する場です。相手は勉強のみ。

強制なし、宿題なし、全体説明なし、ないないづくしです。自分のスピードで自分らしく生きる時間です。背中を押されるような不安もなし、結果も気にすることなし・・・。わからなければ質問すればよし・・・。

この条件を満たしていれば、彼らの中にはストレスは全くありません。ですからいつまでも机に向かっていられるのです。案の定、終了時刻になっても誰もやめようとしません。思わず１時間延長です。彼らが私の心を動かします。

私はこの光景が大好きです。前向きな風が彼らを包み込み、彼らの表情に希望の光が満ちています。

「黙々と歩かせていただきます。」「失敗しても歩かせていただきます。」「ただただ歩くのが楽しいのです。」

この『歩く』を生きるに変えてみます。

「黙々と生かさせていただきます。」「失敗しても生かさせていただきます。」「ただただ生きるのが楽しいのです。」

ご父母の皆様にとって、我が子がそのような姿勢で取り組んでいる姿をご覧になったら、黙って涙がこみ上げてくるはずです。「生きようとしている・・・我が子よありがとう。」

何より家族が幸せの空気につつまれる光景ではないでしょうか。

今の教育現場には、その空気を乱してしまうものが満ち溢れています。

「競争」「親の成績欲」「命令的学習・・・宿題など」

このランチ講習の雰囲気を知って、のめり込んでしまう子が多くいます。もちろん私だけの力でもなし、本人だけの力でもなし・・・ご家族の温かいこころが支えになっていることは間違いありません。

無我夢中になって取り組む我が子を、目を細くして見つめていらっしゃるご家族の想いがあるからこそ、彼らは安心して向かえるのだと思います。

本物の『勉強をする姿』です。

それでも向かえない子たちがいます。「どうしよう」「どうせ無理だろう」「やっぱりやることは勉強だろ」「めんどうくさいよ」「楽がいいもん」「自分のバカがばれるもの」「はずかしいよ」「こわいよー」

ざっと並べましたが、そのすべてが自己中心的な感情から生み出されるものです。

自己中心的な感情をまとめると、『わがまま』ということになります。

よく保護者の方々は、我が子の成績が心配だから・・・ということを強調されます。これをストレートに置き換えれば、成績さえ上がればいいと解釈されてしまいます。ですから、子はある手段を選びます。

「楽をして成績が上がる方法はないかな。」ここが保護者の方と一致してしまうところがあります。保護者の方のご希望は、「短時間で成績が上がる方法はないかな。」

カリキュラムはすべて他人に任せて、命令されたとおりに机に向かう。１００％言うことを聞いていれば、間違いなく成績は上がる。

私はこの光景に、大きな寂しさを覚えます。「君たちは『ひと』だよね。こころを持った『ひと』だよね。人らしく生きようよ。」

あっちへぶつかり、こっちへぶつかり、痛みをしっかり感じながら歩く。痛みがわかるから、人の心に寄り添える。失敗を重ねたから、人の心に寄り添える。

教育とは、何なのだろう・・・成績を上げることなのでしょうか。

教育とは、人の心の痛みを自分の事のように感じ取り、そっと寄り添ってあげられる、深い思いやりとやさしさを育むことであると思います。その最小単位が『家族』ではないでしょうか。生きることの最小単位です。

家族をいつも敬う。友をいつも敬う。そして人をいつも敬う。生きとし生けるものすべてを敬う。

私はランチ講習時、真剣に向かい続ける子どもたちを見る時、深い感謝の念に襲われます。

子どもたちの向こうに、深い愛情を持って見つめていらっしゃるご家族を感じます。

言葉はひとつしかありません。

ありがとうな、心からありがとうな、幸せになろうな。